



証券コード：9702

Software Development Business Report

第55期 報告書

2024年1月1日▶2024年12月31日

Drive
change
to thrive



CONTENTS

What's!?! ISB

アイ・エス・ビーグループ理念体系
アイ・エス・ビーグループの事業領域

ごあいさつ

連結事業領域別業績

連結財務情報

2025年度 業績見通し(連結)

会社概要／株式の状況

株主様向けアンケート結果ご報告

裏表紙のアンケートにご協力ください

What's!? ISB

アイ・エス・ビーグループ理念体系

アイ・エス・ビーグループ企業理念

夢を持って夢に挑戦

私たちアイ・エス・ビーグループは卓越した技術と魅力ある製品・サービスで心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献します。

時代の変化に適応し、知恵とITの融合により、未来を切り拓く新たな価値を創造します。

誇り 誠実 挑戦

誇り

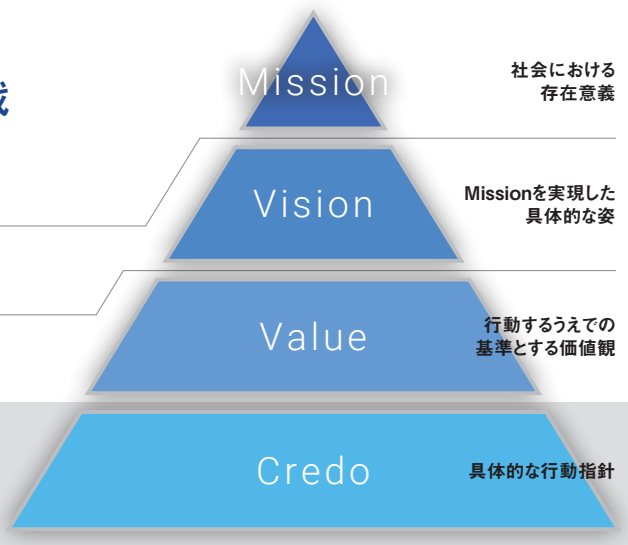
プロフェッショナルとして、自らが技術とアイデアを磨き続け、成長するとともに企業の発展を通じて社員の健康と家族の生活を応援します。

誠実

お取引先様と常に誠実に向き合い、あらゆる期待に応える解決策を提案します。ガバナンスとリスクマネジメントを徹底し、透明性の高い経営に努めます。

挑戦

夢のある未来へ向けて、新たな価値の創造に情熱をもって取り組み、進化し続けます。



アイ・エス・ビーグループの事業領域

私たちアイ・エス・ビーグループは卓越した技術と魅力ある製品・サービスで心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献することをミッションとし、複雑化するICT社会に新たな価値を創造するソリューションと製品を提供しています。

ISBで開発したソフトウェアはさまざまな製品に搭載され、安全・快適・便利な社会を支えています。



モビリティソリューション

モバイルインフラ、移動無線端末・基地局に関わるシステム、車載などの組み込みシステム

エンタープライズソリューション

官庁・自治体、金融系企業向けシステム、ITインフラに関わるシステム

ビジネスインダストリーソリューション

民間企業向けシステム、医療・産業機器などの組み込みシステム

プロダクトソリューション

ALLIGATE(入退室管理システム)、Fit SDM(モバイルデバイス管理)

ソリューション事業・プロダクト事業の詳細はHPでご確認いただけます。

ソリューション事業ページ

<https://www.isb.co.jp/solutions/>



プロダクト事業ページ

<https://www.isb.co.jp/products/>



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第55期(2024年1月1日から同年12月31日まで)の事業概要をご報告し、あわせて第56期の取り組みについてご説明いたします。

昨年の国内経済は、内需を中心に緩やかに持ち直しており、景気の先行きは個人消費や企業の設備投資の増加により、底堅い成長が続くことが予想されます。一方、海外経済には不確定要素が多く、先行き不透明な状況が続くことが予想されます。

当社グループが属する情報サービス産業におきましては、企業のIT投資需要が継続し、2030年代まで底堅い伸長が続くと見込まれていますが、AIやクラウド、ローコード・ノーコードなどの普及により、ITビジネスに携わるプレイヤーにはより高度なノウハウ、力量が求められています。

このような状況の中、当社グループは、2024年を初年度とするISBグループ中期経営計画2026『「永続する企業」へ～Drive change to thrive～』に取り組んでおり、3つの重点戦略である「人事戦略」、「情報サービス事業戦略」、「セキュリティシステム事業戦略」を推進し、さらなる成長を目指しています。成長投資を積極的に進めて事業基盤を強化し、社員一人ひとりが成長できる環境改善を進めることで、当社グループの強みである技術と多様な人材が持つ力を最大化し、「永続する企業」へと変革してまいります。



代表取締役社長 若尾 一史

成長の原動力である多様な人材の力を伸ばす環境構築を推進

——第55期の振り返りをお願いします。

第55期は成長投資37億円を3か年で投資する新たな中期経営計画の初年度として、当社グループの成長の原動力である多様な人材の力を伸ばす環境構築を推進しました。人材を確保し、技術力を高めていくことは、当社グループが事業を持続的に成長させていくための最大のリスクヘッジです。今後も、作業環境や処遇の改善、教育の充実、採用の強化などの人材投資を優先課題として積極的に進めてまいります。

業績につきましては、展開する多くの事業が伸長し、増収増益となりました。セグメント別では、情報サービス事業のモビリティソリューションは5G関連の縮小により減少しましたが、ビジネスインダストリーソリューションは大型プライム案件の受注増などにより増加しました。加えて、エンタープライズソリューションは金融、公共、ITインフラともに受注が堅調で増加しました。プロダクトソリューションはWi-SUN案件が順調に推移し増加しました。セキュリティシステム事業は全般的に底堅く推移し増加しました。

また、プロダクト事業では新ブランド「FiT TOWN」を立ち上げ、新たなビジネス機会の創出に挑戦しています。

——「FiT TOWN」はどのようなソリューションなのですか。

「FiT TOWN」はさまざまな業務をサポートするアプリケーションの集合体です。身近に使っていただけるソリューションという意味を込めて、「FiT TOWN」というブランド名にしました。MDMサービスとして提供してきた「VECTANT SDM」のサービス名を「FiT SDM」にしましたが、こうした「FiT ○○○」といったサービスを充実させていきます。

——株式会社AMBCの株式取得について教えてください。

株式会社AMBCは、経営戦略やビジネスモデル構築のコンサルティング、ならびにソフトウェア等のシステム開発支援で豊富な実績を持つ会社で、当社が目指している分野でもあります。当社は、同社が得意とするいわゆる上流工程に挑戦し続けてきましたが、大きな成果にはつながれていません。自社だけで挑戦するよりも、技術範囲や事業展開領域が補完関係にある両社が協業することにより、相互の成長・発展が目指せると判断し、昨年11月に同社の株式を取得しました。同社との協業を進めながら、上流工程に対応する当社の人材育成にも同社の協力を得て取り組んでまいります。

成長投資

▶▶ 持続的成長の鍵
「人的投資」
「IT投資」を実施

「持続的成長の
ための基盤づくり」
中期経営計画
2026

前中計の
課題

持続的
成長

成果
効果

Mission

卓越した技術と魅力ある製品・サービスで
心豊かに暮らす笑顔溢れる社会づくりに貢献

エンゲージメントの向上

- ・専門性の高いスキル習得
- ・ワークライフバランス

事業基盤の強化

- ・生産性向上
- ・グループシナジー

ソリューション事業の創出

- ・パートナー企業と協業
- ・プロダクト開発

成長投資

37億円
(3か年累計)

人的投資

- ・教育制度
- ・制度改革
- ・処遇改善

IT投資

- ・IT投資
- ・コーポレート
ブランディング

人材面の課題

- ・技術者の確保、エンゲージメントの向上

マネジメント面の課題

- ・プロジェクト管理

M&Aに関しては、これまで通り相互補完、相乗効果のある協業を前提に、内外を問わず、実現に向け引き続き積極的に検討を進めていきます。

——事業所の移転統合について教えてください。

現在の事業所は、過去の取引先の各事業所近くに拠点を設置する方針で場所を決定してきました。現在は、リモート会議の活用やテレワーク環境の整備などにより取引先の所在地にとらわれないオフィス計画が可能になりましたが、事業所の散在状況が継続していました。さらに、社内に目を向ければ、こうした状況が社員同士のコミュニケーションの弊害を発生しているという課題認識もあり、事業所の統合を検討してきました。今回、ISBグループ中期経営計画2026の策定に際し、人事戦略の一環として五反田、新横浜、我孫子の各事業所を移転統合することにしました。

——ISBグループ中期経営計画2026の進捗はいかがでしょう。

ISBグループ中期経営計画2026は、成長投資の効果による事業全般の業績上振れおよび株式会社AMBCの子会社化により、2026年12月期KPIを売上高380億円、営業利益30億円に

上方修正しました。当社グループはこうした安定した成長を続けている一方で、成長を念頭に置いたリスクが伴う挑戦も続いています。そうしたケースでは、プロジェクトの中断などマイナス要因が生じることもありますが、早期の報告と判断でマイナス要因を最小限に止めています。挑戦をしながら安定的に成長することができる企業へと、これからも変革を続けてまいります。

そのためにも欠かすことができないのが、第55期の振り返りで申し上げた人材力を伸ばす環境構築の推進です。ISBグループ中期経営計画2026では3つの重点戦略を掲げていますが、その第一に「人事戦略」を掲げて重視しています。中期経営計画で掲げた人材確保・人材育成の各施策を実行するとともに、社員と企業の愛着心や信頼関係を数値化するエンゲージメントスコアで当社の現状を把握し、それに基づいたエンゲージメントを高める対策を立てて実施しています。

——株主およびステークホルダーの皆様へ。

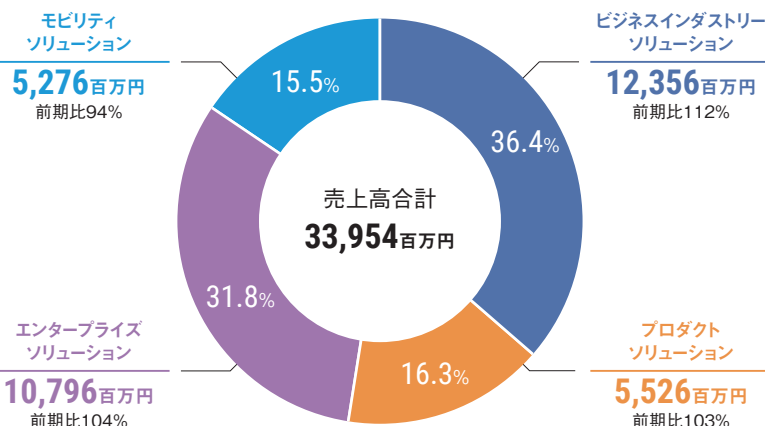
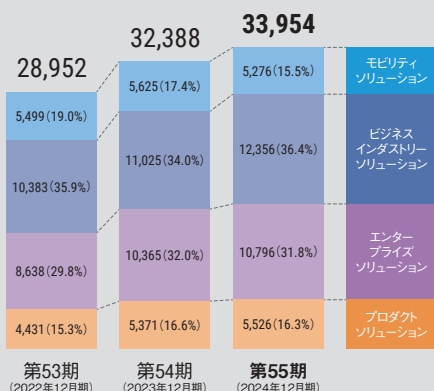
当社グループは、「永続する企業」に向けたステップとして、将来的には売上高1,000億円を目指しています。その実現のためには、社員の環境改善を進めて当社グループの人材力を高め、提供できるソリューションをより広範な分野に増やしていくことが必要です。そうした成長を続けることで、誰もが幸せになれる持続的な社会づくりに貢献してまいります。同時に、社会や経済の不確実性が高まる中で、「永続する企業」をつくることが私の使命であると考えています。

また、当社グループは会長と私による代表2人体制でしたが、昨年代表は私1人へと移行しました。同時に経営層の交代も進めており、当社グループ自体も変革期にあります。挑戦と成長を維持しながら、「心豊かに暮らす笑顔が溢れる社会づくりに貢献する」というミッションの実現に向けた魅力ある製品・サービスを提供してまいりますので、今後ともより一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



連結事業領域別業績

売上高／構成比
(単位:百万円)



モビリティソリューション

業績見通し

[車 載]

技術者の人員確保、育成に注力し、メーター系から領域拡大を計画。

[モバイルインフラ]

車載やビジネスインダストリー、その他組込みヘシフト継続。

[移動無線端末]

車載やビジネスインダストリー、その他組込みヘシフト継続。

サービス紹介

車載分野では、車両に搭載される各種装備品を制御する「ECU(Electronic Control Unit／電子制御ユニット)」のソフトウェアを開発しています。メータ、AD／ADASを含む、車両に搭載される各種ECUの開発を行っております。他にもConnected領域ではOTA、業務効率化ソフトウェアなども開発しています。次世代プラットフォーム開発にも挑戦していきます。

ビジネスインダストリーソリューション

業績見通し

[業務システム]

DX需要は引き続き好調のため、プラットフォームを活用した高い生産性、高収益の業務システム開発の拡大を狙う。

[組込み開発]

人員確保、PJ管理の強化に注力。

サービス紹介

医療システムの一例をご紹介します。
院内の患者データ(診断情報や画像データ等)を統合管理し、PCやタブレット端末から医療従事者が閲覧するための院内システムや、画像診断装置の検査結果を2D・3D画像として表示する機能、操作画面制御のソフトウェア開発など医療機関の活動を支援するシステムを開発しております。

エンタープライズソリューション

業績見通し

[金 融]

主要顧客からの需要が堅調につき、引き続き要員を確保し、受注拡大を狙う。

[公 共]

既存案件に加え、入札案件を拡大。地方自治体案件を推進。

[ITインフラ]

クラウド移行案件のほか、電気・ガス等社会インフラ事業を拡大。

サービス紹介

QRコードを活用した配管管理システムをご紹介します。
従来は、浄水場の現場で、納品された配管は、配管図面やその検査成績書の書類と見比べて照合していた作業でした。
当社が開発したシステムによりタブレット端末でQRコードを読み取り、電子媒体の図面や検査成績書と照合することが可能となり、生産性向上が期待できます。

プロダクトソリューション

業績見通し

[情報サービスMDM・IoT事業]

Wi-SUN案件の引合いは継続。FiT SDM/FiTサイネージを契機に、課題解決のソリューション提案に注力。

[セキュリティシステム事業]

ビルの新設案件は前年度並み。引き続きリニューアル案件獲得に注力。リカーリングは問い合わせ数増加に注力、ブランディング戦略等を進める。

サービス紹介

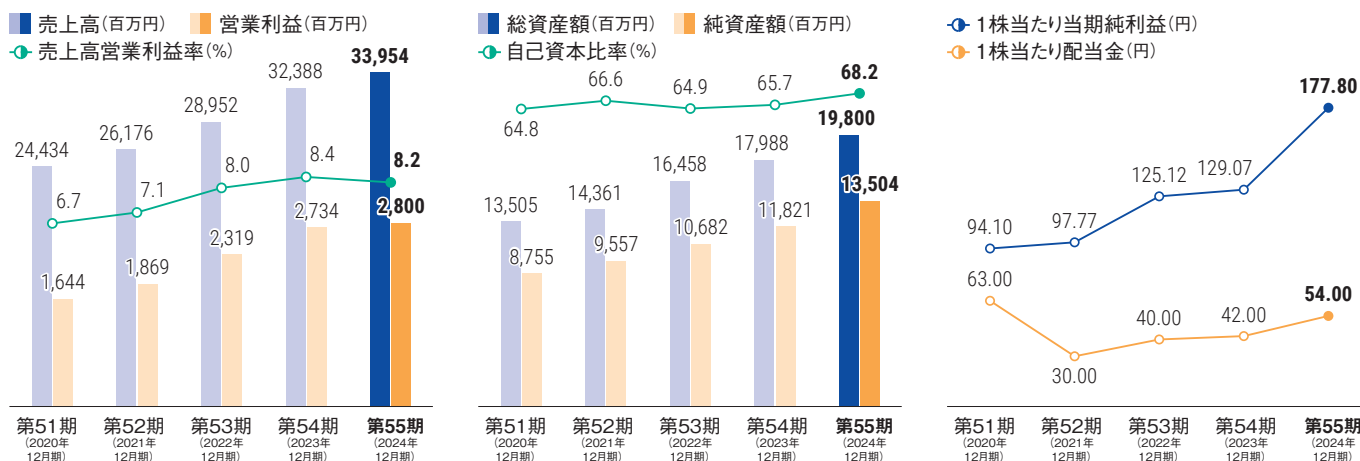
FiT SDMは、ノートパソコンやタブレット端末を一元的に管理・監視・制御できるモバイルデバイス管理(MDM)サービスです。
大手ホームセンター(従業員数:約4,000人)では、各店舗の従業員用タブレットの端末管理やサイバー攻撃・ウイルス対策に活用いただいています。
また、大手運送会社(従業員数:約20,000人)では、配送ドライバーのスマホにインストール、配送時に利用するアプリの配布や紛失・盗難対策で活用いただいています。

連結財務情報

株主・投資家向け情報 www.isb.co.jp/investor-relations/

		第51期 (2020年12月期)	第52期 (2021年12月期)	第53期 (2022年12月期)	第54期 (2023年12月期)	第55期 (2024年12月期)
売上高	百万円	24,434	26,176	28,952	32,388	33,954
営業利益	百万円	1,644	1,869	2,319	2,734	2,800
売上高営業利益率	%	6.7	7.1	8.0	8.4	8.2
経常利益	百万円	1,712	1,940	2,401	2,810	2,892
親会社株主に帰属する当期純利益	百万円	994	1,110	1,423	1,472	2,032
純資産	百万円	8,755	9,557	10,682	11,821	13,504
総資産	百万円	13,505	14,361	16,458	17,988	19,800
自己資本比率	%	64.8	66.6	64.9	65.7	68.2
1株当たり当期純利益※	円	94.10	97.77	125.12	129.07	177.80
1株当たり配当金	円	63.00	30.00	40.00	42.00	54.00
配当性向	%	33.5	30.7	32.0	32.5	30.4
自己資本利益率	%	12.9	12.1	14.1	13.1	16.1
株価収益率	倍	16.3	10.4	9.0	11.4	7.7

※当社は、2021年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第51期(2020年12月期)の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。



2025年度 業績見通し(連結)

売上高

361 億円

(前連結会計年度比 6.3%増)

営業利益

22 億円

(前連結会計年度比 21.4%減)

経常利益

23 億円

(前連結会計年度比 20.5%減)

親会社株主に帰属する当期純利益

15億70 百万円

(前連結会計年度比 22.8%減)

1株当たり配当金

54 円

会社概要／株式の状況

株式の状況（2024年12月31日現在）

発行可能株式総数	25,000,000株
発行済株式の総数	11,437,521株
株主数	3,971名

大株主情報

株主	当社への出資状況	
	所有株式数 (株数)	持株比率 (%)
有限会社 若尾商事	2,001,400	17.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,211,100	10.58
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	520,700	4.55
アイ・エス・ビー・グループ従業員持株会	435,900	3.81
ヨシダトモヒロ	343,000	2.99
若尾一史	299,400	2.61
鈴木育夫	206,000	1.80
株式会社第一情報システムズ	180,000	1.57
ROYAL BANK OF CANADA (CHANNEL ISLANDS) LIMITED-REGISTERED CUSTODY	160,000	1.39
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040	151,300	1.32

会社情報（2025年3月28日現在）

社名	株式会社アイ・エス・ビー ISB CORPORATION
設立	1970年(昭和45年)6月
資本金	23億9,243万円
従業員数(連結)	2,620名(2024年12月31日現在)
役員	代表取締役社長 若尾一史 常務取締役 小笠原芳市 取締役 関本祥文 取締役 牧田甲希 取締役 廣瀬雅也 取締役 山本年朗 取締役(常勤監査等委員) 竹田陽一 社外取締役(監査等委員) 渡邊芳樹 社外取締役(監査等委員) 清水亜希 社外取締役(監査等委員) 佐藤香代 社外取締役(監査等委員) 長谷川智彦
本社	〒141-0032 東京都品川区大崎5-1-11 住友生命五反田ビル TEL 03-3490-1761(代表) FAX 03-3490-7718
事業所	仙台、我孫子、五反田、新横浜、甲府、名古屋、大阪

グループ会社

株式会社エス・エム・シー	システム構築保守、運用サービスなど、顧客のビジネスを支援するITサービスを提供。
ノックスデータ株式会社	長年培った品質を強みとし、スピード感を持ってソフトウェアを開発。
株式会社スリーエス	ソリューション事業・ソフトウェア開発事業を展開。首都圏などからの受注も推進。
株式会社アート	業界のバイオニアとして入退室管理システムなどのセキュリティ関連製品の開発・販売。
アートサービス株式会社	アート製品の修理・保守サービスを提供。
コンピュータハウス株式会社	技術力や想像力を背景とした質の高いITサービスの提供。
株式会社テイクス	IT技術者の育成を強みに、関東圏内を中心に事業所を展開し、システム開発支援事業を営む。
ISB VIETNAM COMPANY LIMITED	海外リモート開発で、高品質かつ適正価格のサービスを提供。
株式会社AMBC	経営戦略の策定、業務プロセス改革、ITシステム開発など幅広い分野で企業のデジタル変革を支援。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	12月31日
中間配当金受領株主 確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711(通話無料)
同連絡先	
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
公告の方法	電子公告により行う公告掲載URL https://www.isb.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内



IR情報や当社に関する最新動向をお伝えしております。



株主様向けアンケート結果ご報告

当社では株主の皆様との対話を重視し、その一環として皆様からのご意見を伺うため株主様向けアンケートを実施しております。

昨年は全株主様の10.3%にあたる414名の株主様からご回答をいただきました。

アンケートにご協力いただきました株主様に厚く御礼を申し上げますとともに、皆様の貴重なご意見を今後の経営やIR活動に活かしてまいります所存です。

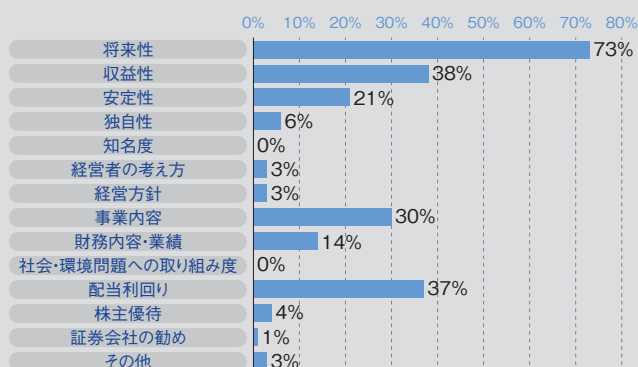
ここにご回答いただいた内容の一部をご紹介します。

尚、当社ホームページには全問の回答結果を掲載しておりますので、そちらもご覧ください。

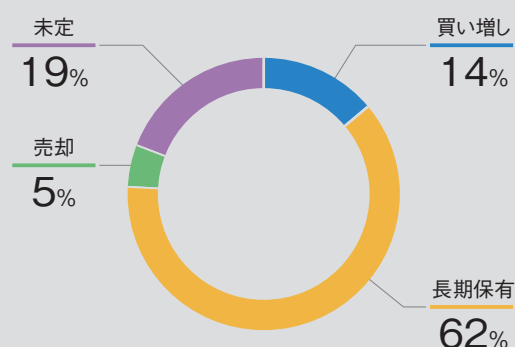
<https://www.isb.co.jp/newsroom/data/pdf/release20240802.pdf>



あなたが当社の株式を購入された理由は何ですか。(いくつでも)



あなたは当社株式に対してどのような方針をお持ちですか。



株主様からのご意見

- いい人材の確保が会社の成長につながると考えます。人材に対する投資をお願いします。
- 得意分野と新技術を絶え間なく磨き小さくとも力のある「山椒は小粒でもびりりと辛い」と言われる企業を目指してもらいたい。
- 理念にあります、夢を持って夢に挑戦し続けてください。期待しています。
- 益々の発展を期待します。事業内容がもっとわかりやすく宣伝できると良いと思います。
- IR等情報開示を充実させて欲しいです。益々の発展期待しています。
- 社長はじめ、皆さん頑張っておられるのは、よくわかりますが、もっともっと革新的な会社として将来性のある企業に成長して行ってください。期待しています。
- 積極的な自社株買いと増配を目標とした、配当政策を経営上の最重要課題として取り組んで頂けたらと思います。
- アンケート結果で他の株主の意見を読めてありがたいです。



〒141-0032
東京都品川区大崎5-1-11 住友生命五反田ビル8F
TEL : 03-3490-1761
FAX : 03-3490-7718

<https://www.isb.co.jp/>



株主の皆さまの 声をお聞かせください

コエキク

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにて
ご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 97027dYA

スマートフォンから
カメラ機能で
QRコードを読み取り



QRコードは株式会社アンソニーウェブ
の登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」✉ koekiku@pronexus.co.jp